平成 30 年度

徳島県立川島中学校

学校評価についての総括評価表

平成３０年度　　徳島県立川島中学校　　学校評価についての総括評価表（１）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
(1)中高一貫教育の推進	①中高連携の促進に努め，生徒の個性や能力を伸張するとともに，異年齢集団における社会性の育成を進める。 ②６年間の計画的・継　続的な教育の研究を進め，中高の一貫性を促進する。	①中高合同の教育課程検討会を年６回，教科会や授業研究会などを年２回程度定期的に開催し，生徒の現状に応じた教育活動を検討する。 ②儀式的行事や体育祭・文化祭だけでなく，必要に応じて行事等を中高合同で実施し，満足度を 80 ％以上とする。 ③特別活動などで，学年をまたがっての活動を取り入れ，６年間を見通 した特色ある教育を行っているとの 答えを 85 ％以上とする。	①中高一貫教育推進委員会を年５回，また中高合同の教科会・授業研究会を１回実施した。 ②例年通り，入学式などの儀式的行事や体育祭，文化祭を行いアンケート結果から，生徒・保護者・教職員の満足度は 67 ％（前年度 73 ％）・85 ％(前年度 87 ％)・86 ％(前年度 70 ％)と生徒・保護者の満足度が減少しており，今後の行事のあり方について検討も必要である。 ③アンケート結果から生徒の 91 ％(前年度 94 ％)，保護者の 91 ％(前年度 95 ％)が，６年間を見通した特色ある教育を行っていると回答しているが，教職員は 72%（前年度 80%）とその割合がそれぞれ下がっている。次年度に向けた対策を講じる必要があると考えられる。	（評定） B （所見） 生徒・保護者のアンケート結果では，ほとんどの項目で，８割以上が，本校の中高一貫教育について肯定的である。しかし，文化祭や体育祭などの学校行事においては，生徒の満足度が 67 ％にとどまっており，主体的に取り組めていないと感じている生徒が多いことが分かる。文化祭や体育祭などにおいて，中学生が主体となって活動する部分も組み込んでいく必要があると考える。また，生徒の学力は開校当初に比べ下がってきており，これまでのような学校目標だけでなく，質問タイムや補充学習などの在り方を考えるなど，現在の生徒の層に合わせた対策が必要である。また今後に向け，より具体的に本校の目指す学校像を明確にし，生徒・保護者に伝えていくことが必要である。 今年度も，数学の先取り学習などの特色ある取組を継続していきたい。	○中高一貫のメリットをもっとＰＲすべき。受験者数が減っているのが気になる。行事はどうしても高校生中心になりがち。 ○中高一貫教育校として，中高合同の教科会･授業研究会が年間１回しか開かれていないのはいかがなものか。６年間を見通した確かなカリキュラムの構築や授業の改善についてマネジメントサイクルに基づく協議を重ねるべきである。 ○生徒の学力の層に幅ができた中で，個々の生徒に合わせた対策に取り組む努力をされていることは大切で継続して欲しい。多忙な中，中高一貫教育推進委員会を５回開いて懸案を話し合われることは，素晴らしいこと。アクティブ･ラーニングなど研究継続をお願いしたい。６年間を見通した教育を行っているかについて教職員の意識が高いことには期待したい。文化祭・体育祭で中学生が主体となる部分も必要であることは同感である。 ○保護者としては，中高一貫教育に期待を持っている。６年間の教育がさらに特色のあるものを目指して欲しい。 ○受験に分断されない６年間を過ごすことができる等のメリットを小学校の保護者に周知してもらえるよう働きかける事が大切。高校進学時にクラス分けを行い中入生と高入生とは３年間混ぜないで行くという中学校側の説明であったが，実際に高校進級時にシャッフルされ混ぜられたことに不満を持った保護者が多数いた。中学入学説明会の時に言ったことは守っていただき６年間を通して同じ教育方針のもと学ぶことができることをアピールして欲しい。 ○「評価指標による達成度について」②と③については，数値が下がっていることも考慮し，「特色のある教育」について検討を行う必要がある。学校行事に関しては，中高で取り組んでいることから，他の中学校より規模が大きく内容も充実している。	○前年度同様，数学の先取り学習に関する課題はあったが，継続して先取り学習を実践した結果，先取りによる効果が得られたと考えられる。特に一昨年度からの「アクティブ･ラーニングの視点からの学習・指導法の改善に関する実践」を中高が取り組んだことで，各年次，各教科での実践が推進されており，今後も継続して取り組んでいきたい。 また，高校への進学に関しては，より一層中高一貫教育の理解を得るように努める。 一方で，生徒の現状に合わせて，本校の取組を工夫・改善の必要性もあると考える。 本校の目指す学校像をこれまで以上に明確にし，生徒・保護者に伝えていくことが必要である。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①併設高校と連携し，教科会を通して生徒の現状に応じた６年間の学習計画づくりをする。 ②中学生・高校生がともに参加する共通の学校行事を設定し，積極的な参加を促す。 ③生活オリエンテーションや専門委員会など，学年の枠を越えた活動を実施する。	①中高一貫教育推進委員会を実施し，一貫教育における懸案等を話し合った。本年度も，授業研究会を実施し，互いの授業参観における感想やアクティブ・ラーニングについての話し合いを行った。 ②例年通りに入学式，対面式，身体計測，始業式・終業式（学期ごと），全校集会（毎月），文化祭・体育祭，人権教育講演会，芸術鑑賞会等を中高合同で行った。 ③今年度も生活オリエンテーションを実施し，楽しんで取り組めた。専門委員会も委員会活動の活性化を図るために年に８回実施できた。			

平成３０年度　　徳島県立川島中学校　　学校評価についての総括評価表（２）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
(2) 確かな学力の充実と指導力の向上	①個別面談の充実や，朝の学習，家庭学習　など自主学習の促進に努める。 ②学力向上を図る研修の充実や，授業の創　意工夫に努める。 ③アクティブラーニングの視点から学習指導方法の研究を推進する。	①「自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることが得意である」と回答する生徒の割合が 50 %以上。 ②高校教員や中学校教員による授業を１人２回以上見学し，授業力の向上を図る。 ③わからないことや疑問に思うことは，自ら調べたり教員に質問したりすることができる生徒の割合が 80 %以上。 ④毎日の家庭学習時間（塾なども含む）が２時間以上の生徒の割合が 30 %をめざす。 ⑤読書の推進に努め，年間読書冊数を１０冊以上の生徒の割合が 30 %をめざす。	アンケート結果 ①１年生 26 %，２年生 25 %，３年生 32 %の生徒が，「自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることが得意である」と回答している。 ②大多数の教員が，２回以上見学した。 ③１年生 55 %，２年生 66 %，３年生 67 %の生徒が，「わからないことや疑問に思うことは，自ら調べたり教員に質問したりすることができる」と回答している。 ④１年生 26 %，２年生 19 %，３年生 17 %の生徒が，毎日の家庭学習時間が２時間以上と回答している。 ⑤１年生 48 %，２年生 60 %，３年生 35 %の生徒が，年間読書冊数が５冊以上と回答している。10 冊以上と回答した生徒は全体で 27 %であった。	〈評定〉 C （所見） 昨年度同様，教員の 100 %，つまり全員が，言語活動の充実を図り，授業の工夫・改善を行っている。ホワイトボード等を活用したｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの取組が全教職員に浸透している。 毎日の家庭学習時間２時間の目標の達成率は，全体では 21 %にとどまっており，改善指導が必要である。 「質問タイムや「補充学習は学力向上に役立っている」と答えた生徒の割合は昨年度とほぼ同じであるが，保護者では８ポイント，教員では 28 ポイント減少している。質問タイム・補充学習ともに方法を見直し，改善する必要がある。 真面目な生徒が多く「至誠ノート」の提出率は高いが，主体的な家庭学習のために役立てられている生徒は全体の約６割程度であった。 読書冊数の達成率は，昨年に比べると減少している。 体験活動は本校の柱であるため，今後も推し進めたい。	○苦手教科を克服できる指導をお願いしたい。 ○「分かっているつもり」が多いので涵養を図るべきである。 ○「自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることが得意である」と解答する生徒が，目標数値を大きく下回っていることに改善への切実感をもっともつべきである。全国学力調査でも他県より大きく後れをとっている。全県を挙げた取り組みが必要である。 ○質問タイムや補充学習が，生徒から昨年同様約８割に評価されているが，より効果的な実施方法を考えていただきたい。至誠ノートでの指導は効果は大きいが，教員の負担が少なく効率的な方法に進んでもらいたい。家庭学習だけでなく塾等も含めた学習状況の実態を把握し指導に役立てて欲しい。識字学級との交流学習は続けて欲しい。 ○評価指標による達成度の低さが心配。指導方法の工夫・改善が必要と思われる。 ○質問タイムと至誠ノートの活用が必要。至誠ノートの活用は，毎日提出する癖をつけることにより，勉強する習慣が身に付いていくように思われる。至誠ノートは毎日苦痛にならない程度の量なので毎日続けることができたように思える。 ○年間読書冊数は，以前に比べどれくらい減っているのだろうか。スマホ，パソコンの影響と考えるが，アンケート結果①の数値が低い原因の一つだろうか。文書作成，プレゼン能力を高めるには，読書は必要と思う。	○教員は，引き続きアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業のいっそうの推進・継続を図り，生徒の主体的・協働的な学びを重視し，授業力の向上に努める。 ○「質問タイム」や「補充学習」がさらに学力向上につながるようにより効果的な実施方法を考える。 ○家庭学習の習慣を身につけるために，家庭との連携をはかり，決まった時間に決まった場所で学習に取り組む方法を推進する。「至誠ノート」の取り組み方や内容について指示したり，先輩のノートを紹介したりするなどの手立てが必要であると考えられる。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①指導方法の工夫，改善のための研究授業及び授業見学を実施する。 ②効果的な「質問タイム」や「補充学習」を実施し，個々の生徒の力を伸ばす。 ③主体的な学びの力を育成するために,家庭学習の習慣づけと自主学習ノート「至誠ノート」を工夫・充実させる指導を図る。 ④読書活動を推進し，表現力と幅広い視野を育成する。 ⑤体験的な活動を計画的に実施するとともに，外部との連携を積極的に取り入れることで社会性を育て，問題を解決する能力を養う。	①全ての教科の授業で，根拠を明確にして説明したり，伝え合ったりするためにホワイトボードを活用する場面を設定し，言語活動の充実を図った。 ②教科の担当ができるだけ時間をつくり質問タイムを年間５回実施できた。また学力を付けるため工夫をこらした補充学習が４回実施できた。 ③「至誠ノート」の提出が滞りがちな生徒に放課後学習や，長期休業中に時間をつくり指導した。 ④委員会活動による読書推進のための活動や，移動図書館の設置により，生徒の読書活動を促した。 ⑤１年生は YMCA 自然体験学習，防災学習の一環で起震車体験，２年生は人形浄瑠璃の鑑賞と体験・識字学級生との交流学習，職場体験学習，３年生は沖縄への修学旅行，防災学習の一環で起震車体験を実施した。			

平成３０年度　　徳島県立川島中学校　　学校評価についての総括評価表（３）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
(3) 生徒の能力・適性に応じた進路の実現	①進路指導プログラムの改善・充実を図り，進路達成意欲を高める。 ②三者面談・年次ＰＴＡなどにより保護者との連携強化に努める。	①「生活オリエンテーション(1年生)，「先輩から学ぶ」(2 年生)，「スペシャルアプローチ」(3 年生）は役に立っていると思う生徒・保護者の割合を本年度も，85 ％以上をめざす。 ②フューチャーにおいて，将来の進路につながるキャリア教育を実施し，それぞれの発達段階に応じたさまざまな体験活動が進路選択に役立つとの回答が 85 ％を超えるようにする。 ③「進学説明会」や,卒業生を迎えての授業「ようこそ先輩」の実施が進路指導・進路選択に役立つとの回答が 80 ％以上にする。	アンケート結果 ①生徒の 84 ％が学年それぞれの実践が学校生活に役立っていると回答した。また保護者の 86 ％が，生活オリエンテーション等の実施が子供たちの学校生活に役立っていると回答した。 ②生徒の 87 ％，保護者の 87 ％がフューチャーでの様々な学習や体験活動が進路の選択に役立っていると回答した。 ③生徒 80 ％，保護者 78 ％が，高校からの進路説明会や先輩からの話が進路の選択に役立っていると回答した。	（評定） B （所見） ほとんどの項目で「そう思う」「ある程度そう思う」という回答が昨年同様８割以上となっており，本校の進路指導におおむね理解をいただいているものと思われる。特に様々な体験活動においては保護者からの回答に高い数値が見られる。質問タイム・補充学習等の実施方法について，生徒からの回答に一部改善を求める声もあった。来年度の課題として全体にはかってよりよい実践を模索していく必要がある。 また，高校説明会や先輩からの話については保護者からの回答の数値が昨年度から少し低くなった。また，保護者の学校説明会等への参加率をもう少しあげることができれば，もっと理解が進むと思われる。高校体験入学や高校生と合同で取り組む学校行事等は，中学生にとって高校生活や進路について考えるよい機会となっている。	○質問タイムや補充学習を充実させて欲しい。 ○中学生の頃から目標を決め，進学したい大学等の事を学んでいくべき。 ○中高一貫教育校としての最大のアドバンテージは，６年間を見通した進路指導ができることであり，進路指導は中高一体として取り組むべきである。併設高校で学ぶ身近な先輩から後輩への進路についてのレクチャーは有効である。自分の学びの過程の先を走る先輩の姿勢や教訓はイメージしやすいからである。 ○１年生で，スクールカウンセラーによる「人間関係づくりのワークショップ」を実施したり，２年３年で職場体験や上級学校調べなど６年間の中の前期としての取り組みは大切。併設の高校生との語り合いも素晴らしい。質問タイム・補充学習等の実施方法について，生徒から一部改善を求める声があり，次年度の実施に役立ててほしい。 ○中学校の時から大学のことを考えて準備するために進学説明会は特に大切。 身近な先輩からの話は特に共感を得る部分が多い。アルバイトをしたことのない生徒にとって，職場体験は働くということを身近で考えることができる良い機会だと思う。 ○「評価指標による達成度について」，①②③の結果は，十分達成できていると思う。学力の向上に保護者としても満足できているととらえているのではないか。高校生と日常的に交流できること，高校生活を身近に感じられていることも，具体的に進路を考える上で役立っていると思う。	○進路指導体制の確立をはかり，１学年から計画的に進路指導を行うとともに，高校との効果的な連携をはかる。 ○質問タイム・補充学習のあり方を見直し，より効果的な方法を探る。 ○総合的な学習の時間・体験活動については，これまで同様，６年間を見通しながら，生徒の実態に沿った内容で柔軟にプログラムを組むことが重要である。 ○様々な行事や活動に保護者の参加を求めたり，お知らせをする機会を増やしていきたい。 ○併設高校に在籍する高校生と語り合う機会は，高校からの説明をより具体的に示すものとして好評であり，今後も継続して実施したい。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①進路指導の充実を図り，生徒の能力や適性を高めるため，行事を等しての体験学習や，質問タイム，補充学習，課題演習（全学年），スペシャルアプローチ（3 学年対象）等の内容の充実を図る。 ②今後の学校生活への目標をしっかり持たせられるよう「キャリア教育」の内容を充実させ，進路選択を支援する。	①各学年に応じた進路指導プログラムを実施した。また，質問タイム，補充学習を定期テストに合わせて年５回実施した。また,夏季休業日(５日)・冬季休業日（２日）の補充授業を実施した。それに加え，３年生にはスペシャルアプローチを各教科４時間程度実施した。 ②１年生は，スクールカウンセラーによる人間関係作りのワークショップを実施し，かかわる力の育成を図った。２年生は，人形浄瑠璃の観戦や職場体験学習などを実施し，伝統芸能の素晴らしさや，働く意義を実践から学んだ。３年生は上級学校調べを通して自己の適性と将来の進路について考え，夏休みには高校体験入学を行った。生徒にとって，これからの自分の進路を具体的に考える機会となった。			

平成３０年度　　徳島県立川島中学校　　学校評価についての総括評価表（４）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
(4)基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	①生徒一人一人の自覚を促し，基本的生活習慣を身につけさせる。 ②あらゆる教育活動を通して，きめ細やかな生徒指導を行い，いじめの防止等の取組に努めるとともに教育相談活動の充実を図る。	①校則や交通ルールの遵守をめざし，90 %以上が交通ルールを守れていると回答できるようにする。また登下校時の交通事故ゼロに努める。 ②あいさつの励行，90 %以上をめざす。 ③携帯電話を正しく使っているとの回答を 90 %以上とする。 ④いじめ防止，早期発見に努め，問題の背景や環境要因も考慮し適切な解決や支援を実行する。	①アンケート結果 校則,交通ルールに関して生徒 89 %(昨年 94 %)保護者 91 %(昨年 93 %)が守れていると回答があり，安全意識は高いが交通事故は起きている。 ②アンケート結果 生徒 57 %(昨年 64 %)，保護者 79 %(昨年 88 %)があいさつをよくしていると回答。数値が昨年度を生徒回答が 7 ポイント，保護者の回答が 9 ポイント下回っている。 ③携帯電話に関しては,生徒 88 %(昨年 91 %),保護者 73 %(昨年 79 %)が正しく使用していると回答した。使用に関して危機感が感じられない面も見える。 ④アンケートや「至誠ノート」をはじめ普段の生活状況等を通して担任が注意深く観察し,いじめ早期発見に努めた。また,校則違反や問題行動等が見受けられた場合，保護者と連携を取り指導した。交通事故防止を集会等で指導し登下校時立哨指導も実施できた。	（評定） B （所見） 自転車運転中の自損事故や交通事故が毎年発生している。交通事故は幸いにも重大事故には至っていないが交通ルールやヘルメット着用の指導を徹底したい。 携帯電話やスマートフォンの所持に教員は危機感を持っている。メールやラインを遊びに利用し,様々な問題が発生している。また，JR 乗車中での使用（ゲームを含む）が増加傾向にある。これらの問題解決には学校の指導だけでなく,保護者の協力が不可欠である。中学生集会や,学年集会を利用して，自己肯定感や生命の大切さについて指導した。また,おもしろ半分に勝手に写真や動画を掲載することは許される行為ではなく,人権侵害やいじめ等,重大な事件につながる恐れがあることを指導した。さらに規範意識についても指導していきたい。	○安全については家庭においても十分な指導が必要であるが，学校においてもしっかり指導して欲しい。 ○社会適性を向上すべき。精神面を強化すべき。 ○たとえ少数でも，交通の安全意識に欠ける生徒や携帯電話の使用ができていない生徒が存在していることは，命や人権侵害に関わることなので，危機感を持って対応すべきである。事の後先をイメージできない生徒に対しては，重大事態に落ち至ってしまった具体的事例を示し，自省させる指導が有効である。 ○携帯電話やスマートフォンの使用については，年々問題が深刻化している。小さな変化を見逃さず情報交換を行って子どもを守って欲しい。自転車通学生のヘルメット着用や並進禁止等で事故ゼロへの取り組みの継続的な指導を。全校集会や中学生集会など効果が大きいので継続しての指導をお願いしたい。 ○あいさつの励行が評価指標では 90%，達成度では，生徒 57%と低いことが気になった。あいさつはとても大事なことだと思うので，基本的生活習慣を身につけさせる上で指導していただきたい。 ○ほとんどの生徒が大きな声で挨拶ができている。多くが汽車通学をしているが，概ね車内のマナーは問題ないと見受けられる。他校生も同乗しているので，今後は，社会のルールとして，車内での携帯電話の使用や座席や通路に物を置かない等の指導を行う必要が出てくる。 ○県立川島中学校の生徒は，落ち着いた学校生活を送っていると思われる。服装や交通マナーも守れていると思われる。	○全項目について指導の徹底を図るが,特にあいさつの励行については登校,下校時の校外においても呼びかけをして 100 %の実施につなげたい。 ○家庭と密接に連携し，安全で安心して生活できる学校づくりを推進していく必要がある。 ○問題行動には携帯電話やスマートフォンを使用したメールのやりとりが関係している場合が多い。そこで，外部機関を利用した携帯電話安全教室のより一層の充実を図り，トラブル防止の徹底をしたい。 また,定期的にアンケート等を実施して生徒の生活状況を把握し，いじめ等の問題行動を未然に防ぎたい。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①社会や学校のルールやマナーを守り，お互いが気持ちよく安全な生活 を送れるようにする。また，徒歩通学生徒，自転車通学生徒，公共交通機関を使用しての通学生徒，保護者送迎等それぞれの通学状況に応じた指導を行い，登下校時の事故やけが の防止に努める。 ②生徒相互，教職員，来客者に対するあいさつを徹底させる。特に全校集会等で生徒会本部役員とタイアップしてあいさつ運動を推進する。 ③外部講師による講話や講習会を毎学期に実施し，トラブル防止を推進する。 ④生徒指導委員会やいじめ防止対策委員会機能を活性化し，携帯電話の不正使用やいじめを予防する教育の推進に努める。また，カウンセリングの体制を充実させ，丁寧な支援を行う。	①入学者説明会等で，生徒や保護者へ校則の周知徹底を図った。 新入生へのオリエンテーションの実施 ＪＲ乗車指導の実施 全校集会後の中学生集会の実施 常時指導の徹底 自転車点検の実施 交通講話 登下校時の立証指導 ②全校集会後の中学校集会の実施 生徒会によるあいさつ運動の実施 ③外部講師による安全教室の実施 常時指導の徹底 喫煙，飲酒,薬物乱用防止教室の実施 携帯電話使用説明会実施 ④委員会機能の活用 非行防止作文,ポスター作成 スクールカウンセラーの配置 各種関係機関との連携			

平成３０年度　　徳島県立川島中学校　　学校評価についての総括評価表（５）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進	①人権教育指導計画の，推進と“あわ”人権学習ハンドブックを活用するとともに人権問題を解決できる生徒の育成に努める。 ②人権尊重の意識を高めるため，創意溢れる具体的な取組の展開に努める。	①「本校の人権学習の内容は適切であり,人権教育は充実している。」と思う生徒の割合，80％以上をめざす。 ②「人権の大切さを学び，それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合，80％以上をめざす。 ③「人権を大切にする教育活動が行われている。」と思う保護者の割合，85％以上をめざす。	アンケート結果 ①生徒 78 ％が，「人権学習に積極的に取り組んでいる。」と回答。評価指標をほぼ達成している。 ②生徒 81 ％が，「生徒は人権について学習したことを日常生活に活かそうとしている。」と回答。評価指標を達成している。 ③保護者 84 ％が，「本校では人権を尊重する考え方や態度を育てる教育が行われている。」と回答。評価指標をほぼ達成している。	（評定） B （所見） 本校は，多くの小学校から入学してきているという実態があり，まず人間関係づくり・仲間づくりを大切にしながら，実践を重ねている。話し合い活動や表現活動を多く取り入れることで，生徒が主体的に学習に取り組めるような授業形態を工夫している。識字学級訪問などの体験的参加型学習は，生徒が積極的に学んでいくために効果的であった。 今回のアンケートにおいて，生徒の人権に対する関心意欲に大きな差があることがわかってきた。意識の低さを分析しながら，生徒の成長段階も考慮した指導も必要になっている。 さらに，学習したことがらを態度化・行動化につなげられるような工夫をしていく必要がある。そのために，教職員の研修を充実させるとともに，外部講師による学習も積極的に取り入れていきたい。また，日頃の姿勢から人権感覚の醸成をはかっていきたい。 中高合同で行っている「人権の日」の校内放送で高校生の考えを聞くことは，視野を広め考えを深めるために役立っている。さらに共に学んでいく機会を設けていきたい。	○「生徒は人権について学習したことを日常生活に活かそうとしている」について生徒の 81%が認めていることは，素晴らしい成果である。月１回中高合同で行う「人権の日」の取り組みは内容があり成果を上げている。ＰＴＡ人権教育講演会の内容が充実していてすばらしい。 ○人権講演会については家族でも大変好評だった。今後もこのような機会を積極的に設けて欲しい。人間関係でのトラブルのないよう積極的な指導をお願いしたい。 ○他人を尊重できる心を作るように学んでいくべき。 ○市内小中学校は，中学校区ごとに人権教育指導計画の作成や生徒指導等で緊密な小中連携が図られている。中一ギャップ解消のためにも連携の可否を探るべきである。人権学習したことが態度化・行動化につなげられるように，実際にできたことを各自ノートに書かせることで意欲を高めてみては。道徳の評価にも参考とできる。 ○講演会の実施，人権発表会の実施など，生徒たちの人権尊重の意識を高める教育を進めて欲しい。 ○人権教育への取り組みは，案外難しいテーマだと思う。今の人と人との結びつきが希薄になっているからこそ重要な課題だと思う。学校・保護者・地域で連携して生徒一人ひとりがどんな人とでもコミュニケーションがとれるような人間に育てることが急務だと思う。人権教育は暗くてつまらないという偏見を持たないようにしてもらいたい。 ○今も全国的に「いじめ」が大きな社会問題であるので，人権問題からも，いじめをしない，許さないよう生徒が主体的に行動するとともに，保護者，教職員で生徒を支える活動を今後も継続できるよう期待している。	○生徒一人一人とじっくり向き合いながら，人権教育の土台である人間関係づくり・仲間づくりをこれからも継続的に行っていきたい。日々の教育活動の中で，自分も人も大切にし，大切にされる集団をつくっていく取組をこれからも続けていきたい。 ○人権教育で学んだことの実践化のために，学習形態をさらに工夫していく必要がある。教師自身も研修を重ね，人権感覚を磨いていきたい。 ○中高の連携をさらに図りながら，共に学んでいく機会を増やしていきたい。 ○ＰＴＡ人権教育講演会など，さらに保護者との連携をとりながら，人権教育を推進する必要がある。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①生徒の実態に即した学習主題を設定し,個別的な視点と普遍的な視点の双方を加味した学習を組み立てていく。また,“あわ”人権学習ハンドブックや「わたしの願い」の活用に努める。 ②生徒一人一人を生かし，大切にする学級づくりのため，生活や情報モラルに関するアンケートを行う。授業や指導の中で，いじめは，人権にかかわる重大な問題であり，絶対に許されない行為であることを徹底する。また，自分も相手も大切にする関係を築き，コミュニケーション能力を育成するために，体験的参加型学習を取り入れる。 ③人権委員会が積極的に活動する場を作り，生徒が主体的に学び，行動に移していこうとする意欲や態度を育成する。 ④ＰＴＡ人権教育推進委員会の活動へ保護者に積極的に参加してもらい，保護者の意見を取り入れながら人権教育を充実させていく。	①各教科における人権教育年間計画を作成し，授業や学校生活の中で人権教育の推進を図った。 ・“あわ”人権学習ハンドブックや「わたしの願い」を活用し，普遍的な視点と個別的な視点を結び合わせながら，各学年で共通の内容の学習を進めていった。１年生は「仲間づくり」，２年生は「識字学級」，３年生は「仲間とつながり合う」ということを意識し，「同和問題」を中心に学習を進め，思いを伝え合うなかで人権問題を解決しようとする意欲を高めることができた。 ②人間関係を築く能力やコミュニケーション能力，他の人の立場に立って考えられるような想像力を培うために，また学んだことの態度化・行動化につなげるために，生徒の実態を把握するとともに授業形態も工夫した。 ・生活アンケートを行い，生徒一人一人や学級・学年・学校の実態を把握することに役立てた。 ・スクールカウンセラーによる人間関係づくりのワークショップを実施し，協力しながら生徒の指導に生かしている。 ・生徒が主体的に参加し，体験することで人権感覚を身につけることができるよう，体験的参加型学習を多く取り入れた。 ・識字学級訪問（2 年生 8 月） ③人権委員会の活性化を図った。 ・校内人権問題意見発表会を実施（6 月） ・月 1 回「人権の日」を設け，中高合同で様々な人権問題について考える時間を持っている。校内放送でも，学んだことや自分たちの思いを全校生徒に向けて発表した。 ・人権標語を作成し，文化祭などで展示する活動や人権新聞の内容の校正など，委員会の生徒主体で行った。 ④ＰＴＡ人権教育講演会の実施 ・水谷修さん 「どこまでも生きぬいて 夜回り先生，いのちの授業」（10 月）				

平成３０年度　　徳島県立川島中学校　　学校評価についての総括評価表（６）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
（6）心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実	①学校行事，生徒会活動を通じて生徒の自主性の育成に努める。 ②ホームルーム活動(学級活動)や部活動のより一層の充実と活性化を図る。	①学校行事に積極的に参加していると思える生徒を 85 %以上とし，保護者の理解も 90 %以上得られるようにする。 ②３年間を見通した体験学習が，豊かな心を育むために役立っていると 90 %以上が思えるようにする。また部活動に積極的に参加できる生徒を 80 %以上にする。	①アンケート結果 生徒 88 %が学校行事に積極的に参加していると回答。保護者 98 %が学校行事が適切に行われていると回答。 ②アンケート結果 生徒 92 %，保護者 96 %が，体験学習は豊かな心を育むために役立っていると回答。また，部活動に参加している生徒の 86 %，保護者 90 %が，部活動に積極的に参加していると回答。	（評定） A （所見） 学級や学校の一員として，周囲との望ましい人間関係を形成し，よりよい生活づくりを参画し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てることができた。	○学校行事等については，評価のとおり大きな問題はないが，部活動の選択肢を増やして欲しい。 ○体育が少ないので朝などマラソンをさせる。身体を疲れさせて，夜に良く寝てもらいたい。 ○活動や行事をマンネリ化させないよう，事前の活動で目的の共有化を図り，活動内容の工夫を考えさせ,参画意識を高めること，事後の活動で，活動を評価させ，次回（次年度）への改善点や申し送りを整理させておくことが重要である。そのためにも，学級活動の時間を積極的かつ有効に活用すべきである。 ○忌部の郷巡りやＹＭＣＡでの自然体験活動，人形浄瑠璃鑑賞体験など特色ある学校行事に取り組み，生徒 92%・保護者 96%が高く評価している。生徒会や部活動にも成果を出している。 ○学校には，多様な行事が一年中を通してある。また部活動も運動部，文化部といろいろとある。生徒が全員部活動に参加して，違う学年の人と交流できる場をもてるようにしてもらいたい。他の学校の人と交わる良い機会だとも思う。 ○中高一貫教育の特性を生かした学校行事や，多彩な行事が行われているので，引き続き充実した学校生活を送れるよう期待している。	○学校行事や生徒会活動，学級活動の目的を再度見直し，さらに充実した学校生活を生徒が送れるよう不断の改善を図っていきたい。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①目的や運営のあり方を見直し，生徒の実態に応じて学校行事をより充実したものにする。 ②各生徒会専門委員会の意義や役割を周知し，生徒の自主的な活動をすすめるため，生徒会活動の活性化を図る。 ③学校生活や学級における身近な課題をもとに話し合い，積極的･実践的に学級の合意が図れるよう指導する。	①学校行事 入学式　４月 忌部の郷めぐり　４月 修学旅行（３年）　５月 ＹＭＣＡ（１年）　６月 人形浄瑠璃鑑賞体験（２年）８月 体育祭，文化祭　９月 ②専門委員会 専門委員会を実施し，呼びかけや活動について，中学生集会で全校に周知徹底した。 ③特別活動の各領域を通じて，望ましい人間関係を形成し，集団や社会の一員としてよりよい学習生活づくりに参画しようとする態度を育てることができた。また，生徒が学校や学級への所属感や連帯感を深め，協力して諸問題を解決し，よりよい学校，学校生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てることができた。			

平成３０年度　　徳島県立川島中学校　　学校評価についての総括評価表（７）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
（7）環境教育及び国際理解教育の推進	①新学校版環境ＩＳＯに取り組むなど環境保全活動に努める。 ②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。	①新学校版環境ＩＳＯの継続申請を行い，生徒が清掃や美化活動に積極的に参加できるようにし，「ゴミの分別・節電･節水等に努めている」と回答する生徒の割合が８０％以上をめざす。また，電気，水道の使用量については，前年度より増えないように努める。 ②外国語活動やグローバルの授業が外国の言語や文化に触れ視野を広げるのに役立っていると思える生徒が 80 ％以上となるようにする。	①アンケート結果 ・「清掃や美化活動に積極的に参加するとともに，ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答する教師の割合は９３％と高かったが、生徒の割合は６２％と昨年よりも下がってしまい，教師と生徒の間に認識の差があった。 ②国際交流 ・アンケート結果より，「外国の言語や文化に触れ視野を広げるのに役立つ国際交流事業を行っている」と回答する生徒は６４％であった。オーストラリアの学校との交流はなかったが、２，３年生は台湾の中学生と手紙の交換を行った。	**（評定）** B （所見） アンケート結果は昨年より下がってしまい，目標は達成できなかった。環境美化委員会の活動をあまり知らない生徒がいることも原因として考えられる。 今年度はオーストラリアの学校との交流がなかったため前年度より達成度が低下していると考えられる。	○今後とも啓発活動の強化，交流学習の実施に力を注いで欲しい。 ○スピードラーニングやネイティブな英語になれた方が良いと思われる。（一日英語だけの日とか） ○環境美化活動は，環境美化委員の仕事とするのではなく，環境美化委員会が取り組みをコーディネートしていくように仕向けなければ，全校への広がりは期待できない。国際交流活動は継続性がなければ，断ち切れていく懸念がある。オーストラリアへの語学研修がない年度には，それを代替する活動を工夫すべきである。 ○環境美化委員会が学期毎に学校周辺のゴミ拾いを行ったり，毎朝玄関の掃き掃除をしていることは気持ち良く朝スタートするためにも大事なことである。ゴミの分別や節電・節水など実践的な環境教育は継続して欲しい。国際交流は，今年度はオーストラリアの高校との交流はなかったが，台湾の中学生との手紙の交換を行ったことはすばらしいことである。次年度４月のオーストラリアの高校との交流に期待している。 ○教室・廊下ともにいつ行っても綺麗な学校だという印象は，前から感じていた。それは他の学校の保護者からもよく聞きくことでもある。廊下を歩くのにスリッパを履かなくては歩けない学校が多いように思うが，県立川島中学校はスリッパがなくても大丈夫という意見をよく耳にする。これは毎日の積み重ねで保つことができているのでこれからも綺麗な校舎を目指して欲しい。 ○環境問題（教育）を身近な問題と感じることができるように，ゴミの分別やリサイクル，リユースの活動を学校行事での節目に行っているので，全校生徒が積極的に参加できるように地道な取り組みの継続に期待する。	○今年度から始めたり工夫したりしている委員会活動もあるので，来年度以降も継続して取り組み，学校の内外にアピールしていきたい。そして，今年下がってしまったアンケート結果の向上に少しでもつなげたい。 ○国際交流の充実を図ることは，日本に生きる自分の立ち位置を知ることでもあるので，「交流会」ではなく「知る，調べる」活動をどのように取り入れていくのかが課題である。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①新学校版環境ＩＳＯの継続申請を行い，環境美化委員会を中心に，清掃活動やリサイクル活動の充実を図る。 ・電気，水道の使用量のグラフやポスターを掲示し，意識の高揚を図る。 ・中庭の花壇の水やりと玄関の掃除を，環境美化委員（当番）が毎日行い，美化に努める。 ・各クラスに古紙回収ＢＯＸを配置し，環境美化委員が回収する。 ②国際交流 ・海外語学研修現地校や海外の学校との交流の機会を積極的に取り入れる。また，「グローバル」等の授業を活用して，自他の文化への理解を深めるなど，生徒が積極的に交流できるように適切な指導と準備と行う。	①環境美化委員会 ・毎朝欠かすことなく玄関の掃き掃除に取り組んだ。また春から秋にかけては水やりを行った。 ・学期ごとに学校周辺のゴミ拾いに出かけ，地域の環境美化に貢献した。 ・文化祭の時にはゴミ箱を設置し，環境委員が定期的に捨てにいったので，校舎内にほとんどゴミが落ちていなかった。 ・裏面利用できる紙は分別し，再利用を行った。 ・中学校棟だけの電気・水道の使用量がわからなかったため，グラフによる掲示等は行わなかった。 ④国際交流 ・今年度はオーストラリアの高校との交流を実施することができなかった。 ・グローバル等の国際理解についての指導を行い，自国の文化とは異なる文化や，他地域への興味・関心を高めた。昨年度に引き続き２・３年生は台湾の生徒との手紙の交換を継続させている。			

平成３０年度　　徳島県立川島中学校　　学校評価についての総括評価表（８）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
(8) 開かれた学校づくりと安全教育の推進	①地域貢献活動等などの活性化や，ホームページ等を活用した広報活動の充実を図り，家庭や地域の連携を深め，外部評価結果を活かす取組を推進する。 ②地域と連携した安全･防災教育の積極的な推進に努め地域防災を担う人材を育成する。	①「参観日や学校公開の日など，保護者が学校に来る機会を多く設けている」と思う保護者の割合 80 %以上をめざす。 ②「ホームページやメール配信は，学校の様子を知る上で役立っている」と思う保護者の割合 80 %以上をめざす。 ③防災避難訓練に真剣に取り組んでいる生徒の割合，80 %以上を目ざす。	①アンケート結果 生徒 72 %，保護者 85 %が，「参観日や学校公開の日など，保護者が学校に来る機会を多く設けている」と回答している。 ②アンケート結果 保護者 64 %が，「ホームページやメール配信は，学校の様子を知る上で役立っている」と回答している。 ③生徒の取組状況はおおむね良好であり，積極的に活動することができ 80 %以上を達成できている。。	（評定） B ---------- （所見） 評価指標①は目標値を達成したが，目標指標②については目標値を下回っている。保護者の回答を昨年度と比較すると，「参観日や学校公開の日など,保護者が学校に来る機会が多くある。」は 10 ポイント減,「ホームページやメール配信は,学校の様子を知る上で役立っている。」は 18 ポイント減である。 授業参観の参加率は昨年度に比べやや減少し,5 ポイント減となった。今年度は参観日の回数が 5 月と 10 月の 2 回に減少したことに加えて，参加率も低下しているため,来年度以降の授業参観のあり方を考えていく必要がある。 県立川島中学校見学会の参加者や，入学者募集説明会の参加者も昨年に比べて減少している。ホームページを充実させ，近隣の小学生やその保護者に学校の特色を積極的に発信していく必要がある。 本校の防災学習や避難訓練には保護者からも肯定的な評価を得ている。	○ホームページについては，毎年様々な意見が出ている。業務多忙，また個人情報に対する配慮等いろいろあるとは思うが，学校の状況を知る貴重な手段なので，引き続き発信をよろしくお願いしたい。 ○ＰＴＡとしては，保護者同士の交流をし，子どもたちの情報を共有していかなければならない。 ○ホームページの更新が滞りがちである。少なくとも数日ごとの更新がないホームページはやがて誰もアクセスしなくなる。学校行事や生徒会活動，体験活動を主担当した教員が，活動の様子をホームページに掲載する段階まで責任をもつように徹底することが必要である。 ○ホームページやメールの発信が役立っていると 64%の保護者が認めている。小学校での学校説明会が１３校に止まっている。少しでも多くの小学校の子どもと保護者に前向きな姿勢を伝えて欲しい。地域防災についても生徒２名が防災士資格検定に合格するなど地域と連携した安全・防災教育に努め，地域防災を担う人材を育成している姿は素晴らしい。 ○近年は，学校ホームページから情報を得られることが大切と思うのでホームページの充実（定期的な更新）が必要である。しかし，先生方の負担にならないように工夫することも必要である。 ○ホームページは，正直最近は面白みに欠けることがあるようにも思われるが，現代ははネット社会なので学校に行かなくても学校の様子が見れるホームページの役割は大きいと思う。参観日は保護者の人に学校に来てもらう良い機会だと思う。また中学受験を考えている小学生の保護者の人へも良いアピールができる機会だと思う。	○参観日の授業内容を見直し，本校の魅力や特色ある取組について発信できる機会にしていく必要がある。 ○ホームページの更新を迅速かつ充実させるためには，情報戦略課を中心とした教職員の連携とホームページ更新についてのマニュアルの周知徹底が必要である。 ○本校ならではの取組である質問タイムや補充学習，中高一貫教育を生かした川島高校との連携について見直し，その魅力をどのように発信していくかさらに工夫していかなければならない。 ○防災学習をカリキュラムの中に適切に位置づけ，より効果的な学習が行われるよう工夫していきたい。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①保護者や地域に開かれた学校づくりとして，授業参観，学年部会，中高一貫教育懇談会等を開催する。 ②専門的な知識や技能を有する地域の方を招聘しての学びの機会をさらに増やすことにより，多様な学習活動の充実と地域の方の本校教育への理解を深める。 ③本校の特色を地域に理解してもらうため，パンフレットなどを作成し，近隣小学校に配布するとともに，小学校保護者を対象とした説明会を実施する。また，ホームページを通して情報を発信する。 ④小学 6 年生とその保護者を対象とした入学者募集説明会を実施する。 ⑤防災避難訓練にあたっての事前，事後指導の徹底をはかり,総合的な学習の時間で防災学習を行う。 ⑥防災クラブの活動の活性化を図るための取組を行う。	①授業参観（５月１０月，参加率 67 %） 学年部会（５月），県立川島中学校見学会（７月，47 世帯が参加），とくしま教育の日公開授業（11 月），高校説明会 ３学年対象（７月）２学年対象（10 月） ②外部講師を招いての主な授業 薬物乱用防止教室　全学年 4 月(2 名) AED 講習会　全学年 5 月(3 名) 歯みがき教室　全学年 6 月(2 名) 交通講話　全学年 7 月(1 名) 人間関係づくりﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ　1 年 9 月(1 名) 先輩から学ぶ　2 年 10 月(5 名) 人権問題講演会　全学年 10 月(1 名) 福祉体験学習　1･2 年 11 月(4 名) 携帯電話安全教室　全学年 12 月(1 名) 防災学習における地震体験　1・3 年 1 月(4 名) 思春期講演会　3 年 2 月(1 名) ③ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄを作成し,近隣の小学校に配布するとともに，訪問説明会を 13 校で実施した。また，２学期以降のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ更新ができなかった。 ④ 9 月と 11 月に実施,50 世帯が参加。その時に企画広報委員会で作成した広報誌「絆」も配布した。 ⑤中高合同の避難訓練（２回）や J ｱﾗｰﾄ訓練など，生徒は積極的に参加した。１年生と３年生は起震車を体験するなど，総合的な学習で防災について学んだ。防災講演会などの活動を通して，全校生徒，保護者の防災･減災への意識の向上を図った。 ⑥本年度は２名が「あわっこ防災士養成講座」を受講し，防災士資格検定に合格した。			